

CNALレポート・ジャパン

Conferecing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議/ビデオ会議・Web会議・電話会議システム専門 定期レポート

2007年特集レポート

編集:editor@cna.jp 広告:pr@cna.jp 読者登録:<http://cna.jp>

Copyright 2007 CNA Report Japan. All rights reserved.

特集レポート

■ Codian APAC Conference レポート



Codian <http://www.codian.com>



Codian アジア太平洋地域パートナーカンファレンス(イギリス、ケンブリッジ)

2007年1月12日から1週間 Codian 社の招待で、イギリス ロンドン郊外にあるケンブリッジにて開催された Codian APAC Partner Conference(コーディアン・アジア太平洋地域パートナーカンファレンス)と、Codian 社本社見学に参加してきた。今回の参加では、Codian 香港に準備や調整をしていただき、日本の販売パートナー企業の1社である、メディアプラス株式会社(東京都千代田区)の社員の方々に同行させて頂いた。

Codian 社は、設立が2002年と4年強の若い企業でありながら、非常にユニークな視点でテレビ会議システムのインフラ製品開発に取り組んでいるとともに実績を上げているとい

う点で、この業界専門のマーケットリサーチを生業とする私としては、今まで関心をもって Codian 社取材してきた。

そういったところから、このパートナーカンファレンスでは、Codian 社はこういった内容の発表を行うのか、そのカンファレンスにはこういったパートナー企業が参加するのか、そのパートナー企業にこういったメッセージを伝えようとしているのか、あるいは Codian 社がこういったフィードバックを得ようとしているのかなど興味があった。

パートナーカンファレンスは、通常メーカーが開催する販売パートナー会社向けの発表会イベントではあるが、正直なところ、私自身は、今までこの業界のパートナーカンファレンスには参加したことがなかった。パートナー企業向けであるため、会議システム専門のマーケットリサーチを行う私は本来対象外であるのだが、パートナーカンファレンスというのはこういったものであるのか、また、その一般的な意義について知るよい機会でもあったため、招待の正式連絡を頂いた際に参加させて頂くことで返事をした。

3年ほどで十数億円規模の企業へ成長、パートナーカンファレンスは初めて開催

Codian 社は、設立当初からインフラ製品に事業をフォーカスし、MCU装置、IP ビデオ会議レコーダー/ストリーミングサーバー、ISDN/IP ゲートウエーなど主力3製品として開発してきた。その間、社員は100人規模に、パートナー企業も全世界に40社程度に増え、既に十数億円規模の企業までに急速に成長してきた。

そういった中で、パートナーカンファレンスを開催するのは今回初めてという。「パートナーカンファレンスは当社としては今回初めて開催した。今までは我々の販売パート

ナー企業に直接訪問して当社の事業ビジョンや製品開発予定など伝えてきた。お陰様で事業が拡大しパートナー企業も増え、当社としてパートナーカンファレンスを開催するだけの段階に来たと考えた。」(CEO David Holloway 氏)

今回のパートナーカンファレンスは、APAC(アジア太平洋地域)、EMEA(欧州中東アフリカ地域)、そして北米地域(サンフランシスコ開催)の順番に開催。APAC パートナーカンファレンスが終わった次の日には、今度は EMEA の販売パートナー向けのカンファレンスが始まるというスケジュールだった。

Codian 社のパートナーカンファレンスがイギリスのケンブリッジで行われたのは理由がある。Codian 社の創業者である、3名、Mark Richer 氏、David Holloway 氏、William MacDonald 氏は、全てケンブリッジ大学出身。20年前から Madge Networks 社、Calista 社(シスコシステムズ買収)、そして Codian 社と3社の企業を立ち上げ、それぞれ事業を軌道に乗せ発展させてきた経験を持つ。Codian 社の社員も半分は、ケンブリッジ大学出身とありエリート集団。

今回のパートナーカンファレンスには、Mark Richer 氏、David Holloway 氏の他に、プロダクトマネージャ Mark Loney 氏、APAC 香港の Peter Cho 氏などが交代で今後の製品リリース予定などを発表、また、会場では、Codian 社の各インフラ製品などの展示デモが行われ、パートナー企業の参加者からは活発な質問や意見などが出されていた。

*プロダクトマネージャ Mark Loney 氏、APAC 香港の Peter Cho 氏は、2005年12月に一度このCNAレポートで取材、インタビューレポートを掲載している。(協力:株式会社日立ハイテクノロジー(東京都港区))

APAC 地域から約 25 名参加、日本からはメディアプラス、日立ハイテクノロジーなど Codian 社、販売パートナーを重視、ユーザー等からのフィードバックには積極的に対応

APAC の販売パートナー企業は、日本、韓国、中国などから総数約 25 名参加。日本からは、1次販売パートナーとして、メディアプラス株式会社と株式会社日立ハイテクノロジーなどが参加した。日本でも Codian 社の実績は着実に伸

びており、両社とも同社製品には信頼と期待を持ち今後日本での販売を強化していきたいと考えている。

今回のカンファレンスのポイントは、(1)2007 年への取り組み、(2)Codian 社の Face To Face Communications 社の買収、(3)テレビ会議システム運用予約管理システム CMP(Codian Management Platform)、(4)Codian Global Address Book(コーディアン・グローバル・アドレス・ブック)、(5)Codian Conference Director(コーディアン・カンファレンス・ディレクター)、(6)MCU4500 シリーズを使った、ポリコム社、タンバーク社、ソニー社、LifeSize 社のHDテレビ会議多地点接続デモ、など非常に興味深い発表が行われた。

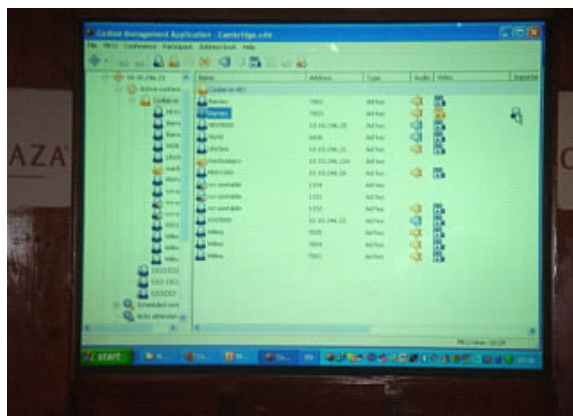
「Codian 社として、2007 年は非常に重要でかつエキサイティングな年になる。製品開発やサービスの強化を図り、音声ビデオインフラ製品における業界リーダーを目指したい。」と David Holloway 氏はパートナーカンファレンス冒頭挨拶をし、今年以降積極的に新しい製品開発を行っていく考えを述べた。

また、パートナー企業との関係の強化についても言及。「当社は、顧客やパートナー企業との協力を大変重視している。皆さんと良い関係を築いていきたい。」(同社 CEO David Holloway 氏)パートナー企業との協力関係の強化と、パートナー企業あるいはユーザー企業からのフィードバックに対する迅速な対応を今後もしっかりとやっていきたい考えを強調した。

「顧客や当社からのリクエストに対して迅速に対応していただいている。非常に早い対応でパートナー企業として Codian 社に対して信頼が持てる。」(メディアプラス 代表取締役 尾崎 修司氏)

パートナーカンファレンスが行われている会期中、何人かの Codian 社の幹部とも直接お話をさせていただく機会があったが、よりニーズにあったものを積極的に取り入れていこうという成長志向的な考えを持つ企業だとの強い印象を持った。

Face To Face Software 社の買収と、運用管理システム (Codian Management Platform、Codian Global Address Book、Codian Conference Director) の発表



Codian Management Platform (CMP)

インフラ製品やビデオ会議端末が企業内のビデオ会議ネットワークに増えてきた場合、管理や運用が煩雑になってくる。会場では、ビデオ会議の運用管理を効率よく簡単に実現する「Codian Management Platform(CMP、コーディアン・マネージメント・プラットフォーム)」と、テレビ会議端末からリモコン操作でアドレス帳データを参照することが出来る「Codian Global Address Book(コーディアン・グローバル・アドレス・ブック)」、進行中の会議セッションをモニタリングしたりして管理運営するための「Codian Conference Director(コーディアン・コンファレンス・ディレクター)」が発表された。

CMP は、既に Codian 社から販売されている、「MCU4200」、「MCU4500」、「MSE8000」の多地点接続装置の会議予約管理から、ストリーミング装置である「Codian IP VCR 2200」の自動会議録画などを、操作が簡単なシングルインターフェイスでコントロールすることができるようにする管理システム。

Codian Global Address Book と Codian Conference Director は、CMP に対する補助的ソフトウェアとしての位置づけではあるが、それぞれ単独のソフトウェアとしても提供

する。また、今年のバージョンアップの予定も発表され、積極的に機能の強化などを行っていく考えだ。

CMP は、スケーラブルな LinuxOS を採用。ウェブブラウザで操作が行えるとともに、予約操作は、Microsoft Outlook、Lotus Notes、GroupWise(ノベル社)から簡単に行える。ユーザーと管理者と両者が使用することができ、管理者は、ユーザー毎にユーザーアカウントを設定し使用出来る範囲を決められる。

また、オープンソースの Zimbra をベースに開発されているため容易に多言語をサポートしている。

さらに、Active Directory や LDAP ベースの社内の認証システムやアドレス帳サーバーなど社内システムとの連動も可能だ。

CMPによって、Codian IP VCR 2200の自動会議録画は、会議セッションを録画しそれをリアルタイムでストリーミングファイルに自動変換も行う。ちなみに、Codian IP VCR 2200のHDビデオ対応も第二四半期(4月-6月期)に予定しているという。

会場で CMP の概要を説明した Face To Face Software 社から来た Simon Downey 氏は、「CMPでは、一度に8000ものテレビ会議セッションを同時に予約できるだけの能力を持つ。複数の MCU が存在する際に、会議予約をする場合 MCU のリソース管理がひとつの問題になる。CMPでは、リソース管理が非常にしやすい。その一例として、予約をする場合どの MCU を使用するかを、CMP が自動で MCU のリソース状況を把握し適切な MCU 使用を実現する機能も持つ。さらに、MCU のリソースから MCU が使用する帯域まで効率よく管理運用が行える。」と CMP の特長を説明する。

会議予約については、任意の日時の設定から定期的なもの、定期的でも変則的な日時で開催するカスタマイズなどの設定も行え、会議予約の負担を軽減するための工夫が施されている。予約設定後参加者宛にメールでの通知を行える。また、同じ日時に会議が重複していないかどうか知らせてくれる機能もある。さらに、国際間で多地点テ

レビ会議を行う場合、タイムゾーンの設定が煩雑だが、CMPは自動的に調整する機能を持つ。

Codian 社としては、設立以来インフラ製品専門でハードウェア製品を開発してきたが、運用管理ソフトウェアシステムはいわば車の両輪となる非常に重要なものとする。

一般的に MCU など付属してあるウェブインターフェイスのコンソールは、それだけでは単体の製品のみ操作ができればであり、企業内に MCU や端末などを多数導入した場合、この運用管理ソフトウェアシステムは非常に重要な役割を果たす。

Codian 社は、Face To Face Software 社を買収し Codian ファミリーに迎え入れることにより、ビデオ会議ネットワークの要となる運用管理システムの開発を強化しようと考えている。Face To Face Software 社は、Codian Australia 社としてシドニーをベースに CMP などの開発を今後も進めていく。

*Face To Face Software 社は、2004 年にシドニーに設立されたソフトウェア開発会社。以来 Codian 社に対して「Scheduler」、「AutoStream」、「Manager」などのソフトウェア製品を提供してきた。

Codian 製品の展示とデモ：業界初の MCU4500 での HD ビデオ会議多地点デモ - ポリコム、タンバーク、ソニー、LifeSize 各社の HD 対応のビデオ会議システムを接続



製品デモ - Codian MCU と各ビデオ会議端末が並ぶ



SD と HD ビデオ会議混在の多地点接続



HD での多地点接続デモ

会場では、参加者席の後方にデモコーナーも設置され、MCU4200 や MSE8000 などの本体の展示や、最近発売された HD 対応の MCU4500 シリーズに、ポリコム、タンバーク、ソニー、LifeSize 各社の HD 対応のビデオ会議システムを使った接続デモが披露され、参加者に対して Codian 社担当者が詳しく説明をしていた。

「ポリコム、タンバーク、ソニー、LifeSize 各社の HD 対応ビデオ会議システムの多地点接続が行える装置は、現在 Codian 社の MCU のみだ。」(Codian ASIA Pacific テクニカルマネージャー Aaron Chin 氏)

「当社は、専門のインフラ製品メーカーとして業界の中では常に先進的な開発を行ってきている。他の競合他社は MCU を開発し製品として提供はしているが、一般的に自社ビデオ会議端末の性能と機能のサポートが中心にな

るのが普通だ。その点、当社は、専門のインフラ製品メーカーとしてのユニークな立場から、主要各社のビデオ会議端末の機能や性能をフルにサポートすることに力を入れている。異なるメーカーのビデオ会議端末を導入する場合——そういった導入ケースが増えてきているが——この点はユーザーにとって非常に大きなメリットとして実感してもらえると確信している。」(同 Aaron Chin 氏)

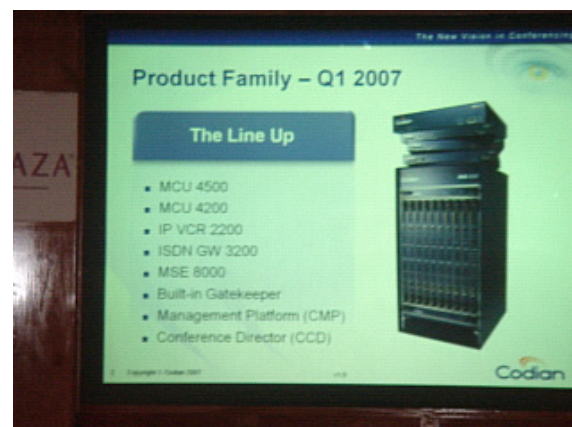
「異なるメーカーのビデオ会議端末をサポートする最近の一例としては、ソニーのHDテレビ会議システム「PCS-HG90」の8Mbps帯域にもMCU4500は対応したということが挙げられる。」(同 Aaron Chin 氏)

「当社製品のハードウェアのスペックとしては、まだ十分余力のある設計をしている。使用されているDSPは、テキサスインスツルメント社との緊密な協力関係の中で開発された、業界の中でもっとも最高のパフォーマンスを実現したチップである。たとえば、MCU4500は、全ポートHDに対応しており、MCU4200に比べポートあたりの性能は10倍強化されている。また、HDビデオ会議端末とSDビデオ会議端末の混在も可能。現在720p/60fpsに対応しているが、その次と言われている1080p/30fpsもすでにハードウェア的にサポートしている。」(同 Aaron Chin 氏)

2007年の製品リリース予定:積極的な機能の追加、HDビデオ会議システム強化、IPv6への対応、ユーザーの投資保護の観点から5年先をみた製品開発、環境保護へのグローバル対応

パートナーカンファレンスで発表されたその他の内容は、(1)IP VCR 2200の外部ストレージ対応(1-3月期)、(2)ゲートキーパー(スタンドアロンタイプ)が、インテリジェンスをもったロードバランシング機能を実装(7-9月期)、(3)MSE8000は、20ポートのHD対応ブレードに対応(10-12月期)、(4)MCU4500は、現在、12ポートと20ポート仕様だが、7月-9月期には、30ポートと40ポート仕様もリリース予定。(5)MSE8000などとともにかスケード機能も強化の予定、(6)API(他のシステムとの連携で必要になるインターフェイ

ス)、(7)ローカリゼーション(地域毎の言語対応など)、(8)IPv6の対応、など機能の強化や追加、あるいはアップグレードなどを積極的に行っていくという内容。



MSE8000

IPv6については、日本や北米のNGN(次世代ネットワーク)やIPv6化の動きに迅速に対応したいと考えている。

同社のMCUの強みは、5年先の性能と機能を考えて製品の基本性能や技術が設計されている点と力説する。「当社は、まずたとえば5年先にどのようなビデオ会議システムの性能や機能が必要かということを考え、それを基に今必要な性能や機能を定めるというアプローチで製品開発を行っている。これは結果的には、ユーザーの投資保

護に役立っていると思っている。」(同 Aaron Chin 氏)

また、性能や機能の先進性だけではなく、最近各国で厳しくなってきた環境保護の対策や各基準への対応も行っているという。この点について、Codian APAC の Peter Cho 氏は、「当社の製品は、EU の環境保護基準にも対応しており、有害な物質は製品を構成する筐体などには含まれていない。今後各国の同様な基準にも積極的に対応していきたいと考えている。」

本社訪問

パートナーカンファレンス終了後、APAC 販売パートナー企業の参加者は、バスで Codian 社本社ビルへ向かった。Codian 社本社ビルは、ヒースロー空港から近い Langley 地域にあり、ケンブリッジからは約 1 時間強で到着。Codian 社本社ビルのあるエリアには、企業が入った 3-4 階建ての建物が多数周りにあったが非常に閑静なところだった。販売パートナー企業の参加者は、2 つのグループにわかれ、社内建物の各部署を見学した。社内は非常にフレンドリーな雰囲気の中、販売パートナー企業参加者を迎えてくれた。

「製品出荷が増加しており、出荷前の最終製品テストを行う場所が手狭になってきているため、部屋を拡張する予定だ。」(Codian 社) 事業が拡大しているため、そのための建物の拡張も迫られているという状況のようだ。

社内見学では、製品開発の要になるソフトウェア開発部門や、筐体や回路基板などの設計や開発を行う部門などを周り、その後、相互接続検証用のテストラボ、製造委託の工場から届いた出荷前の製品を最終テストするテスト部門と出荷作業を行うロジステック部門を見学させていただいた。製品に関する高い品質保持に力を入れているというのが実感として得られた。

最後に

APAC 販売パートナー一行とは、ケンブリッジの前と一緒にスペインのバルセロナに 2 日ほど滞在した。バルセロナからケンブリッジまでほぼ毎日ビジネスミーティングの忙しい合

間の空き時間には食事やバルセロナとケンブリッジの徒歩ツアーなどで行動を共にし、非常にフレンドリーな雰囲気ですぐに 1 週間を過ごすことが出来た。



Codian 社社員とアジア太平洋地域パートナー企業からの参加者

Codian 社について、またそれを支える Codian 社社員、パートナー企業の方々を知る機会が持てて非常に有意義であった。

(終わり)